

33歳の時にそれまで勤めていた建築事務所から独立し、中国の北京に建築事務所を開業しました。以来、中国と日本を往復しながら、主に中国でたくさんの建築物を手がけてきました。文化や風習が大きく異なる中国でのビジネスは大変な面もたくさんありますが、ビッグプロジェクトが多く、その分やりがいも大きいですね。

2011年3月11日の東日本大震災以降は日本に帰る頻度が増えました。被災地の皆さんが、再び海と共生しながら一緒に安心して暮らせ、働ける場所を造るためです。それが現在取り組んでいる東北スカイビレッジ構想です。通常の建築プロジェクトには発注主がありますが、このプロジェクトにはいません。発注主は自分です。建築家としてこれだけは絶対に実現しなければならないという強い使命感で推し進めているのです。

大震災以降、日本中を暗い空気が覆い、もう日本には希望なんてないと、言葉にはしなくてもそう思う人もたくさん増えたと感じています。しかし、私は絶望的な状況などなく、必ずどこかに希望の光を見いだせるはずだと思っています。今の状況をより良くするんだという信念をもち、自分にできる最大限のことを愚直にやり続ける。そうすればその光をより強めていくことができる。

だから希望はつくるものだと、私は信じているのです。

絶望的な状況なんて
ありえない。
希望はつくるものなのです
建築家／迫慶一郎

Keiichiro Sako

迫慶一郎

さこ・けいいちろう●1970年福岡県生まれ。東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修了。幼いころから大抵のものは自作できる祖父や近所の家を建てていた大工にあこがれて建築家の道を志す。中学・高校と野球部で活躍。大学時代はヨット部に所属。大学院を卒業後、山本理顕設計工場に入社。国内で2つの建築設計に携わった後、中国・北京で70万平米の巨大建築プロジェクトに抜擢される。33歳の時に退職しコロンビア大学の客員研究員になると同時に、SAKO建築設計工社を北京に設立。アメリカと中国を往復するというハードな生活を1年間送る。これまで手がけた約80件のプロジェクトのうち、中国での仕事が70件を占める。若手建築家としては驚異的な実績。日本では現在東北スカイビレッジ構想の実現に向けて奔走中。2013年3月WAVE出版から「希望はつくる」を上梓。「情熱大陸」「ガイアの夜明け」「NHKスペシャル」などテレビ番組にも多数出演。